

## 「電子議会とペーパーレス化!!」

1. 調査事件 議会ペーパーレス化事業について
2. 期 日 平成29年5月18日（福岡県篠栗町）・19日（福岡県嘉麻市）
3. 出席者 委員会委員5名、正副議長、議会事務局長
4. 調査内容

### ○18日（篠栗町）

篠栗町は福岡県糟屋郡にあり森林セラピー基地認定の地域で、人口31,213名、面積38.9km<sup>2</sup>で、南関町と比べ人口密度の高い町と言える。

篠栗町では議案書類の郵送・手渡しや大量の印刷物、また資料の差し替え等に対する解決策としてタブレット導入の検討を始め、平成24年9月から25年12月までの1年半を掛け議会の改革に取り組み、費用対効果や、システムの種類、また管理を含めたところの対応について等の問題点もある中で、議会のIT化として26年9月議会から運用を始め、町全体としてのペーパーレス化の推進を始めた。

システムについては、閲覧機能の制限はあるが、セキュリティの確保が出来るためWi-Fiを選択。無料アプリについてはスムーズミーティングを採用している。

導入経費については、初期費用としてシステム導入費約300万円、Wi-Fi設置費約600万円、維持費用は通信費約300万円（年）、年間保守点検委託料約100万円である。同時に、貸与タブレットの使用制限や情報提供などの規定、セキュリティに関する規定、端末機の管理規定なども設けられている。

### ○19日（嘉麻市）

嘉麻市は福岡県の中央に位置しており、面積は135.11km<sup>2</sup>あるものの、市全体の約72%が森林であり、人口においても明治末期から昭和初期にかけ炭鉱の町として礎を築いてきたが、石炭産業の衰退等により人口減少が進み、現在は38,743名である。

この嘉麻市においても平成25年11月議会運営委員会でペーパーレス化を協議が開始され、同12月各常任委員会に諮られた。（反対0）



平成26年に入ってから、専門部会を立ち上げ、その中で端末はアンドロイド、無料アプリはサイドボックスに決定し、機器導入の決定や入札方式の決定がなされてきた。また同時に補正予算計上や、アプリケーションまたはタブレット端末使用の研修がなされてきた。そして9月定例会から紙とタブレットの並行運用が開始され27年度からは本格稼働となった。



### （考 察）

篠栗町や嘉麻市、どちらも費用対効果の面で紙の削減による数字だけを見ればまだまだ足りないと思われるが、迅速な情報の共有や、資料の作成や差し替えの時間短縮やそれに携わる職員の労力、更には議員活動の向上を考えれば、避けては通れないことだと思う。また、どちらも計画から、僅か1年半でタブレットに移行している。あれこれ計画に時間をかけるより本気で取り組んでみようという気持ちが一番なのかもしれないと思う。



## 「調査!、調査!!、調査!!!」

1. 日 時 平成29年6月29日（木）
2. 場 所 宮尾地区、高久野地区、元第3保育園他
3. 出席者 委員会委員5名、副町長、地元議員、宮尾地区3名の区長  
熊本県玉名地域振興局2名、町職員5名

### 1、防火林道（東部小岱山線）の現地確認内容

①防火林道の整備によりできた大きな窪地（溪流の流れ込みあり）3か所では溪流排水コルゲート管で道路地下を排水してある。豪雨時は流木等がつまり窪地が満水になり、道路が決壊する恐れはないか。また、この林道地下では新幹線トンネル工事が行われ発破が使用されており、地盤に何らかの影響を与えている懸念がある。近年の豪雨等を考えると、土石流の発生で道路が決壊し下流域に被害が及ぶ恐れがある。砂防ダム等の建設が出来ないか検討の要望について。

#### （県・町からの説明）

くぼ地3か所の排水呑口は流木等の流入形跡はないが、落石や枯葉が詰まる可能性があるため林道の管理委託業者に定期的に点検清掃を行うように指示を徹底する。又、この林道の構造は、砂防堰堤より土砂留に対する強度は高いと判断しており道路上にある亀裂についても盛土部の想定沈下の範囲内のものである。よって現時点では、林道下部に堰堤（砂防ダム）を作る必要はない。



#### （委員会及び地元からの意見）

維持管理の徹底と管理委託業者による点検清掃を十分に行っていただきたい。

②瓶焼川の砂防ダムに比べ、宮尾川上流の砂防ダムは規模が小さい。50数年も昔の規格で建設されているため不安である。現在の規格での改修増設はできないか。

#### （県からの説明）

宮尾川の上流の砂防ダムについては、平成28年7月に調査を行っている。築年次は古い構造上の問題は無い。上流域の想定土砂量によりダムの規格が決まるため宮尾川上流のダムについては現状で問題はない。土石流危険個所の調査の中で危険度が高かった宮尾川上流のダムと瓶焼川間の溪流の調査を現在計画しているところである。

#### （委員会及び地元からの意見）

現行の宮尾川の上流域の調査を実施していただき、ダムの建設をお願いしたい。

### 2、県宮南関西地区改良事業進捗状況確認

当初2工期で計画されていたが3工期に変更されていた。1工期はすでに終わっており、田植が進んでいる状況である。今後2・3工期の改良事業が10月より始まるが遅れないようにしていただきたい。

### 3、元町立第3保育園譲渡処分について

元第3保育園は平成22年統廃合により廃園となっており、維持管理のみ総務課で行っているが有効活用の計画はない。そこへ隣接するグループホームより活用したい旨の申し入れがあった。譲渡の手法としては、更地にしての有償譲渡、現状のままの無償譲渡か。

#### （委員会の意見）

土地の評価額より解体費用が高いため更地で譲渡処分するより、現状のまま無償譲渡を望む。

### 4、南関町加工品開発センター設計図検討

加工品開発センターの設計図が提案されたが、委員会としては加工室、洗面所の位置が悪いため再度検討する必要がある。